～人権が尊重されるまちをつくろう～
～身近な生活の中から学ぼう～

2025.6.20
第86号

人権・同和教育だより 丹波篠山

市同教ホームページ

発　行
丹波篠山市
人権・同和教育研究協議会
TEL・FAX 079-593-1260
http://t-s-doukyou-hr.jp
〒669-2734 丹波篠山市宮田240
丹波篠山市役所 西紀支所3F
年2回発行 6・10月

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会
2025年度活動計画について

5月17日（土）に「丹波篠山市人権・同和教育研究協議会　第27回定期総会」を開催しました。議案は2025年度活動方針および事業計画・予算を含め、すべて承認されました。

基本方針

1．我が国の社会に今なお存在する部落差別をはじめ、あらゆる人権課題の解消を図り、すべての人の基本的人権が尊重されるまちづくりに向け、教育や啓発活動の充実に努めます。
2．「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」「ＬＧＢＴ理解増進法」「丹波篠山市人権尊重のあたたかいまちづくり条例」等、人権関係法令の理念に則り、市民、事業者、団体、機関等と広く連帯し、人権課題の解消と人権文化の確立をめざします。
3．人権・同和教育の学習活動の場を充実させ、差別を許さない市民意識の醸成、人権意識の高い人づくり・地域づくりに努め、こころ豊かな共に生きる市民社会の実現をめざします。

活動方針（要旨）

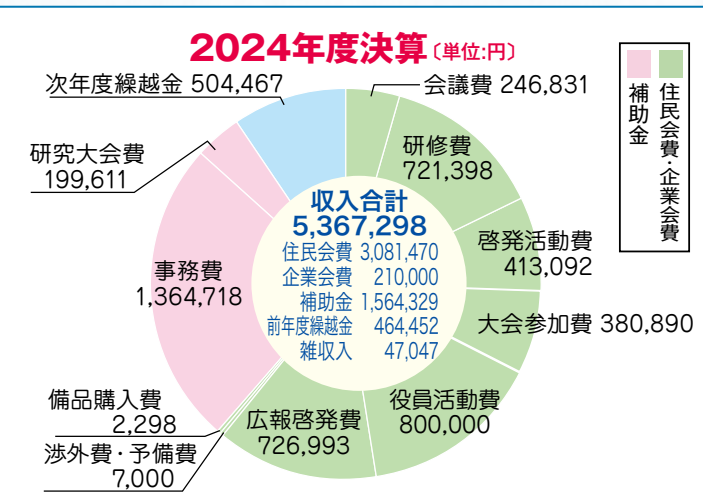
丹波篠山市人権・同和教育研究協議会（市同教）は、発足以来「差別の現実に深く学ぶ」ことを基本理念として、同和問題をはじめ、あらゆる人権課題の解消と人権文化の確立をめざし、教育や啓発活動に取り組んできました。

しかしながら、今もなお、私たちの社会には、ＡＩやＳＮＳの利用による人権リスク、ネット上に蔓延する差別的情報、子どもや若者の貧困、いじめや不登校児童生徒の増加、高齢者や子どもへの虐待、様々なハラスメントやＤＶ、ＬＧＢＴＱ+など性的マイノリティ（少数派）への無理解等々、解消すべき多くの人権課題も生じています。中でもネット社会は、利用環境の急速な拡大により、誰もが、いつでも、どこにいても、容易に情報を入手・発信できる環境であり、個人に対する誹謗中傷や偏見、プライバシーの侵害等、悪意のある書き込みがあふれています。子どもたちでさえも意図せずに加害者や被害者として巻き込まれる等、ネット社会は深刻な人権問題となっています。

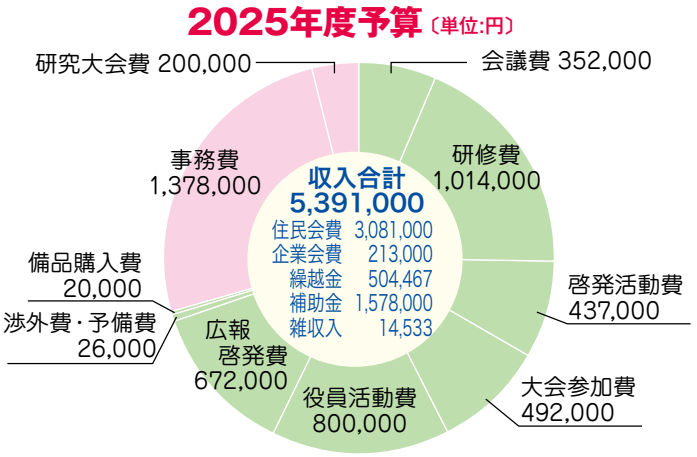
さらに、今、世界では、さまざまな国や地域で戦争や紛争が多発しています。また、2025年は日本にとって終戦から80年の節目の年です。今起こっている紛争を、遠い地域でのこと、日本の戦争を遠い昔のこと、としてしまってはいけません。「戦争は最大の人権侵害である」という言葉をかみしめ、「命の尊厳」や「戦争の歴史」「紛争の現状」について学ぶことが大切です。無関心でいるのではなく、平和を願う気持ちを持ち続けなければなりません。

私たち市同教は、本年度も同和問題をはじめ多様化・巧妙化した様々な人権課題の解消をめざし『だれもの人権が尊重され、自分らしく生き生きとくらせるまちづくり』の実現に向け、教育や啓発活動に全力で取り組んでまいります。

前述した人権課題の解消には、私たち自身の人権意識や人権基準、そして、差別の現状認識をアップデート（更新）していくことが大切です。そのため、市同教では、本年度も「１人の100歩より100人の1歩」という言葉をしっかりと意識し、あらゆる世代の皆様にご参加いただけるよう学習や啓発の在り方を工夫してまいります。



※補助金は、市からの補助金より人件費を除いた事業補助金です。



※補助金は、市からの補助金より人件費を除いた事業補助金です。

2025年度の出発にあたり

会長　五十山田（いかいだ）　潤（じゅん）

最近、ハラスメントに関するニュースをよく見聞きします。ハラスメントは、セクハラやパワハラ等30種類以上あるとも言われています。他にも、性の多様性やネット上の人権侵害等、新たな人権課題が生じています。これだけ多くの人権課題があると、知らないうちに「相手の心を傷つけてしまった」ということも起ってきます。事実、今起こっている人権侵害の多くは、言った本人に悪気はないのですが、言われた人は傷ついてしまうという、自覚のない差別だと言われています。

また、人権課題の多様化と共に社会の中の人権基準も高まってきています。「今までは、これで大丈夫やった」は通用しなくなっており、絶えず自らの人権意識や人権基準を更新（アップデート）していく必要があります。私たちは、「～をしてはいけません」ではなく「人を尊敬することによって、みんなで人権課題を解消していきましょう」という前向き・肯定的な考え方を基本に、更新（アップデート）に適した学習を用意しています。皆様方には、市同教の事業の推進に、ご協力・ご支援いただきますよう心よりお願い申しあげます。

「人権・同和教育セミナー2025」受講のお知らせ

差別解消のためには、だれもが人権課題について正しく理解すること、自分事として捉えることが大切です。本年度は部落問題をはじめ、様々な人権課題について学習しますが、次の3点を意識しながら人権文化の確立をめざしたいと思います。

①部落差別解消に向けた学習があらゆる人権課題を解消する原点になる
②どんな場面、どんな状況でもまず人権について考えることが大切
③差別解消に向けて変わるべきはマイノリティ（少数派）ではなくマジョリティ（多数派）

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会では、正しく知る、正しく理解するための学習の機会として、2021年度より丹波篠山市内在住者、市内在勤者に「人権・同和教育セミナー」を開講しています。このような学習を通して、人権・同和学習を深め、差別をなくす実践力を養い、「人権尊重のまち　丹波篠山市」をめざします。皆さまの受講をお待ちしています。

＊参加費：無料（原則は４回連続受講。ただし都合で選択も可）
＊会場：第1回、第2回、第4回セミナーは丹南健康福祉センター　2階　研修室
第3回セミナーは西紀老人福祉センター　2階　健康教育ホール
＊申込締切り：7月18日（金）としますが、随時、市同教までお問合せください。
＊気象警報等により中止する際には、ホームページで確認できます。
＊第3回セミナーは障がい者部会研修会と兼ねますので手話通訳があります。

市同教ホームページからも申し込み用紙のダウンロードができます。

	実施予定日	演　題	講　師
1回	8月2日（土）14:00～16:00 丹南健康福祉センター	「震災と人権」 －阪神・淡路大震災30年に考える	被災地NGO協働（きょうどう）センター 増島（ますじま）　智子さん
2回	8月30日（土）14:00～16:00 丹南健康福祉センター	「変容する現代社会の部落差別 －『差別する人の研究』からその次へ」	大阪公立大学教授 阿久澤（あくざわ）　麻理子さん
3回	11月8日（土）14:00～16:00 西紀老人福祉センター	「“自分らしく生きて”って言うけれど…」 ～適切な支援について日々思うこと～	一般社団法人am＊am 代表 おひさまにこにこクリニック 八尾　由江（ゆうこ）さん
4回	1月24日（土）14:00～16:00 丹南健康福祉センター	「わたしからはじまる部落問題」 －部落差別の現実に私ができることは－	一般財団法人大阪府人権協会 業務執行理事　柴原　浩嗣（ひろし）さん

申込先：丹波篠山市人権・同和教育研究協議会 事務局
電話／FAX：079-593-1260（月・火・木・金）　E-mail sajinken@pure02.pure.ne.jp

©Minato Studio 2025

みんなの人権を考える映画会

映画『港に灯がともる』

入場無料！

と　き　2025年8月11日（月・祝）14:00～

ところ　丹波篠山市民センター・多目的ホール

予約不要・当日直接会場にお越しください

今年は阪神・淡路大震災から30年の節目の年となります。この映画は、震災を経験した親をもつ震災を知らない世代や、在日コリアン家族の苦しみや葛藤を描いた物語です。

震災で多くの家屋が焼失し、一面焼け野原となった神戸・長田。かつてそこに暮らしていた在日コリアン家族のもとに生まれた主人公の灯（あかり）。両親からこぼれる家族の歴史や震災当時の話が遠いものと感じられ、孤独と苛立ちを募らせています。家族は衝突が絶えず、いつも冷たい空気が流れています。この映画をとおして「震災と人権」、「多文化共生」また「心のケア」について考えてみませんか。無料でご覧いただけますので、是非ご来場ください。

研修に「丹波篠山の人権史跡」を巡るフィールドワークをやってみませんか？

人権史跡を知ることは、私たちの先人の生き様を知ることです。

市内には、過酷な藩政に抗った人々の足跡や生活向上のために立ち上がった人々の碑、教育や文化の拠点など様々な史跡があります。

そうした史跡を巡ってみませんか？フィールドワークを希望される団体には、丹波篠山市同教より、半日5千円の講師料を補助します。詳しくは丹波篠山市同教までお問い合わせください。

主な行事予定

掲示板

＊7月26日（土）
兵庫県人権教育研究大会　丹波地区大会
四季の森生涯学習センター

＊9月27日（土）
兵庫県人権教育研究大会　中央大会　豊岡市

＊11月29日（土）、30日（日）
全国人権・同和教育研究大会　兵庫県・大阪府

＊12月13日（土）
丹波篠山市人権・同和教育研究大会　丹波篠山市立田園交響ホール

役員紹介

会　長	五十山田　潤
副会長	細見　悟
〃	土性　里花
〃	松家　次朗
〃	瀧山　玲子
〃	岸田　幸雄
会　計	安井　直哉
会計監査	圓谷　稔弘
〃	中澤　吉富
顧　問	溝畑　賢
理　事	（団体選出）44名

会報編集委員紹介

安井　聡博　　西田　こず枝
中井　慎太郎　　森田　貞二

本年度も、上記の４名の委員で編集を行います。
会報が皆様に親しまれ、人権をより身近なものに感じていただけるよう、紙面づくりにとりくみます。

編集後記

今年度の「みんなの人権を考える映画会」は、阪神・淡路大震災から30年の節目として「港に灯がともる」を上映します。この映画は2021年に公開された「心の傷をいやすということ　劇場版」を契機に制作されました。震災当時は、PTSD（心的外傷後ストレス障害）という言葉もまだ多く知られていませんでした。震災によって、多くの人が心に傷を負い、今では災害時における心のケアの大切さも高まるようになりました。今年度の映画会では、震災と人権をテーマに、心のケアを一緒に考えてみませんか。

※掲載しております研修会やイベントは、気象状況等により中止・変更する場合があります。市同教ホームページまたは電話（月・火・木・金／９時～17時）にてお問合せください。

暮らしの中から

知らない人とハイタッチ～場を共有する喜び～

ボクの息子は、この4月から中学生になり、反抗期に入り生意気ぶりが目立ってきました。夫婦共々予想はしていましたが、直面すると「ヤレヤレ」とため息がこぼれます。それでも可愛いところがあって、「おと～さん、何書いてんの？」と、このコラムに自分が載ることを少し楽しみにしているようです。

息子は、現在野球にハマっていて、部活動も野球部を選び意気込んでいます。その息子にせがまれて、ひいき球団のホームゲームを観戦に行きました。開幕直後ということもあって、息子希望の内野席は満席で、陣取ったのは外野の一角。

周りを見渡すと、ボクの横は仕事帰りの男性グループで後ろは外国人グループ、妻の横は若いカップルで後ろはガチガチファンの女性グループ、息子の前は親子連れ、という面々です。出身地や国籍、年齢も異なるファンが、ともに勝利を信じてメガホンを叩き、声をからす状況に圧倒されつつも、妙な高揚感に自分も浸っていきました。

ヒットが出てチャンスになると「ヨッシャーッ！」、ファーボールを出してピンチになると「アホーッ、何してんねん！」と、応援席はまさに修羅場。大声やヤジが当たり前のように飛び交う中、「これ、選手からしたらモラハラやな」などとほくそ笑みながら、あっという間に時間が過ぎていきました。

結果は、なんと9回裏サヨナラでひいき球団が勝利。その歓喜が渦巻く中、横の男性グループとグータッチし、後ろの外国人グループと握手するボクがいました。そして、前の親子連れと、はにかみながらハイタッチして、満面の笑みで喜ぶ息子がいました。息子は、内弁慶で引っ込み思案系なのに、「場」がそうさせたのでしょうね。帰り際、ずっと「外野席で面白かった」と興奮覚めやらぬ様子でした。

出身地や国籍、年齢など、生活空間が異なりつつも、同じ目的・意志をもった人が同じ方向に向かい、その場を共有していく…、野球観戦をとおして、改めてその大切さを知りました。もとい、息子の「野球を観に行きたい」の一言が、ボクたちに良い経験を与えてくれました。

そうそう、このコラムをボクが書くことで、少なくとも、息子が読み家族も読んで、ささやかながらも、ボクの思いを共有する場になっているのかもしれません。

安井　聡博

人を許せる自分に

「Aさんなんか、無くなり、消えてしまえ！」と、恨みに満ちた叫び声をあげながら、今日も夢から目覚めました。私は、現在68歳です。この「Aさん」に出会ったのは、今から56年前であり、私が中学一年生の時でした。当時、「Aさん」に、抗う勇気もなく、痛めつけられ続けた中学三年間がトラウマとなり、「Aさん」は、68歳を迎えた現在も、私の枕元に現れ、私をなぶり続けています。

そんな悪夢にうなされながら、もがき続け、やっとたどり着いた思いが、「全ての存在が幸せに、平和に暮らしていくことが出来ますように！」と、心を込めて祈ることでした。この祈りは、父親として二人の息子たちに誇れる生き方を、七転八倒を繰り返しながら追い求め、やっとたどり着いた私の切なる思いでした。そんな私の思いを、意図も簡単に踏みつけ、あざ笑うかのように、現在も「Aさん」は私の前に現れ、私を苦しめています。

そんな中、2025年を迎えたある日、いつものように、病気のため、四六時中、便が出続けている状態である私が、トイレの便座に長い間座っていると、トイレの天井から、神様の声が舞い降りてきたのです。「『Aさん』を許し認める為に、私（神様）は、『Aさん』に、56年もの間、お前（森田貞二）に出会わせ続けて来たのだ！」という言葉が聞こえて来たのです。私はこの瞬間、ハッとし、神の思いに気づかされました。

しかし、56年もの間、私を苦しめてきた「Aさん」を心の底から許す日が、神の声を聞いたからといって、果たして、本当に、やってくるのかどうか不安でたまりませんでした。やがて、私の命の炎が燃え尽きる時が、必ず訪れますが、それまでに「『Aさん』を許す！」、そんな崇高で神々しい瞬間が、本当にやって来るのかどうか、これまで歩んできた私の醜い人生を凝視すると、私に恥辱感だけが沸き上がり、その思いは半信半疑です。されど、この56年間のトラウマから解き放たれ、「Aさん」を許せる日が必ずやって来ると、最後の最後まで信じ切り、私は、「この時・この瞬間」を、精一杯駆け抜けて行きたい。それが「Aさん」に出会った宿命であり、人を許せる心を授かった私自身に出会わせてくださった、全ての存在に対する感謝の証（あかし）なのです。

森田　貞二